

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ねむのき		
○保護者評価実施期間	令和8年1月28日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46名	(回答者数) 32名
○従業者評価実施期間	令和7年12月23日		～ 令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士、児童指導員、精神保健福祉士、作業療法士の配置や、法人内(建物内)の看護師との連携により、支援体制を整えている。 ・療育についての経験の豊富な職員を多く擁し、OJTを中心とした職員育成を推進している。 ・療育等支援事業による外来相談や近隣町を訪問しての母子保健事業を活発に実施しており、地域の児童発達支援に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内外の研修等で研鑽を積み、知識・技術の向上に努め、専門的な発達支援が安定して提供できるようにする。 ・法人内で情報共有を図り連携に努める。 ・療育の未来を担う若手支援者の育成にも注力する。
2	活動プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムに基づき5領域を盛り込み、遊びの中に課題を取り入れた療育プログラムを作成し、運動遊び、ミュージックケア、触感覚遊び等、特色ある療育を行っている。 ・それぞれの発達段階に応じて、基本的な生活習慣の自立をはじめ、スモールステップで発達をめざすとともに、意思形成支援へとつながるよう『選ぶ』ことを意識した取り組みを行っている。 ・行事やイベントに工夫し、季節や和の文化、地域の文化を肌で感じたり、保護者の皆様と、子どもの成長をともに喜びあえる時間をつくっている。 ・夏には大きなプールで遊び、送迎バスを利用した園外活動等、持てる資源をフル活用して、体力づくりや集団生活への適応等、工夫を凝らした療育を行っている。 ・クラス別療育のほか、発達段階に合わせてクラスを横断的に再編成したグループ療育を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの最善の利益が優先して考慮されること」を基軸に据えつつ、子どもが心身ともに健やかに成長し、のびのびとチャレンジできるよう、安全安心に細心の注意をしながら、療育内容にさらなる工夫を凝らしていく。 ・行事やイベントについては、子どもと家族と一緒に楽しみ、成長を感じることが出来る機会として、保護者の皆様と意思の疎通を図りながら、効果的に実施していく。
3	保護者支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・親の会があり、保護者同士の交流の場や勉強会がある。 ・ペアレントトレーニングを行っている。 ・保護者の皆様に支援場面の観察や参加等の機会を定期的に提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事前の準備のお手伝いや、クラス活動参加後に時間を設け、気軽に意見交換を行ったり、話ができる場などを設けたりしている。また、全体の交流会も行っている。 ・親の会では、卒園児の保護者の方からの話を伺える機会も設定しており、就学までに必要な情報が共有できる場となっている。 ・毎年ペアレントトレーニングのプログラムの受講者を募集し実施している。 ・親子遊び、自由参観をそれぞれ月1回設定しており、実際に支援の場面を見ていただいたり、参加していただき、子どもへの関わり方等のアドバイスをを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の皆様が、気持ちを共有したり情報交換ができる有意義な場となるよう、工夫しながら企画していく。 ・多くの職員がペアレントトレーニングについての知識を深め技術を習得することで、家庭での支援をサポートできるようにする。
4	延長支援	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供時間(9:45～14:45)以外で、8:00～9:45、14:45～18:00の間、保護者の就労に伴う延長支援を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、延長支援を実施していく。
5	幼児用マイクロバスがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・松茂町→鳴門市→北島町→藍住町→徳島市のルートで送迎バスを運行している。 ・送迎だけでなく、療育の中でもバスを利用することで、様々な場所への園外活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大好きならん号に乗って登降園したり、友達と色々な場所へ行く経験や体験を積むことで、子ども自身の意欲や自信につながる支援を行っている。 ・令和8年には、バスを新調することで、より安全快適な送迎と園外活動の実施が期待できる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、イベントの内容、子どもの状況の情報共有等について、保護者との意思疎通が十分でないケースがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とのきめ細かな意思疎通が十分とは言えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との相互理解のもと、一体となって発達を支えていくことができるよう、様々な機会をとらえて保護者の皆様と対話し、丁寧に意思疎通を図り、安心して利用していただけるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・療育プログラムの企画や日々の療育の振り返り、協議等に、クラス全員が集まって十分に時間をとれない時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務体制、時間の都合等で、日によって、クラス職員全員がそろえることが難しい時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議、記録の効率的な運用、全体的な業務の効率化等、業務改善により、クラスミーティングの時間を生み出し、全職員が情報共有と連携できる体制を構築する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有ツールが統一できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、電話連絡、各月のクラスだより、セコムメールでの連絡、HP、インスタグラム等、情報発信・連絡ツールが統一できていないので、周知が遅れたり不十分な時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな連絡用アプリを導入、活用し、連絡帳機能に加え、様々な情報伝達へと、段階的に機能を拡充していくことで、的確な情報の伝達、共有と利便性の向上を図る。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・建物、設備の経年劣化等 	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化により、テラスの雨漏り、ドアの故障、遊具の摩耗・損傷等が発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を最優先に、遊具、教具等の定期的な点検を実施している。 ・子どもの安全確保に十分に配慮しながら、建物、設備の修繕を行っていく。